

用語解説

ブロードバンド

「広帯域」という意味で、従来の固定電話回線などに比べてもっと多くのデータをさらに速く伝送できる大容量な通信を指します。代表的なブロードバンドの通信の技術として、ADSL(別項参照)や光ファイバ網などがあります。

ユビキタス

“ubiquitous”は「同時にいたるところに存在する」という意味です。IT分野では、パソコンや携帯電話、家電機器などさまざまな機器がネットワークで結ばれ、だれもが、いつでもどこでも情報をやり取りできることという意味で用いられ、今後のシステム形態の一つとして話題になっています。

FTTH

Fiber to the Homeの略で、各家庭まで光ファイバが布設されることを意味します。各家庭でブロードバンドの通信サービスを利用するために必要な形態の一つです。

IPv6

Internet Protocol Version 6の略で、現在のIPv4の後継のプロトコルです。IPv6ではIPアドレスのサイズが128ビットとなることから、機器一つ一つにIPアドレスを与えることができるとともに、セキュリティを確保することができます。広域化するネットワークをターゲットとしたプロトコルです。

Java^{※)}

Sun Microsystems社が発表したオブジェクト指向言語です。高い信頼性と移植性、分散環境やリアルタイム性への対応を特徴としており、インターネットに接続する機器や情報端末のソフトウェア記述言語として活用されています。

モバイルエージェント

ネットワーク上の計算機や装置の間で情報を収集したり、サービスを提供しながら移動するプログラムを言います。広域ネットワークで連携して動作する計算機や情報端末の増加と、Java言語の普及などにより、ネットワーク社会を支える新たな技術としてとらえられています。

ASP

Application Service Providerの略で、インターネット上で通信サービス以外に応用分野までの付加価値を供給する者を言います。新しい技術・ツール、そして新しいコンセプトに基づいたビジネスモデルを検討し、提

供しています。

GIS

Geographic Information Systemsの略で、位置に関する情報を持ったデータベースを使い、利用目的に合わせて情報を高度に解析し、視覚化する技術です。

ADSL

Asymmetric Digital Subscriber Lineの略で、既存の銅線電話加入者線を使った非対象デジタル加入者線を指します。また、この加入者線のための高速データ伝送技術を表すことばとしても使われます。電話線を使って、インターネット常時接続環境を提供する技術として利用されています。

Bluetooth

Ericsson社、IBM社、Intel社、Nokia社および株式会社東芝が中心となって提唱している携帯情報機器用の無線通信技術です。ノートパソコンやモバイル機器などを、10m以内であればケーブルを使わずに接続します。他の無線方式に比べて消費電力やコスト面で優れており、広い分野での利用が期待されています。

WHM

Watthour Meterの略で、各家庭にある電力量計のことです。このWHMをインテリジェント化し、家庭内情報ネットワークのゲートウェイやサーバとして利用することにより、エネルギー管理などの新たなサービスが可能となります。

電力線搬送

電力線を利用して情報を搬送することを言います。これにより、家庭内の機器間やインターネットなど外部との情報通信を、新たに配線することなく、既設の電力線を利用して行うことができます。

ECHONET

エアコンや冷蔵庫などの家電製品とセンサなどを無線や電灯線で結ぶ設備系ネットワークのことで、家庭内の機器の電源を遠隔操作でオンオフしたり、また、消費電力量を一括管理したり、セキュリティサービスなどに利用することが考えられています。

※) JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標である。

● セキュリティポリシー

ネットワークのセキュリティを管理するための方針を言います。どのような情報をどのような脅威から、どのようにして守るのかについての基本的な考え方を示すとともに、情報セキュリティを確保するための体制と運用についても方針を示します。

● MPEG2

Moving Picture Experts Group 2の略で、現行のNTSC方式テレビのレベルを超える品質でHDTV(High Definition Television)の画質までを包括する動画像符号化標準です。通信や放送、蓄積メディアを対象として考えられています。

● ITS

Intelligent Transport Systemsの略で、道路交通の安全性、輸送効率、快適性の向上などを目的に、最先端の情報通信技術などを用いて、人と道路と自動車を一体のシステムとして構築する、新しい道路交通システムの総称です。

● ETC

ETC(Electronic Toll Collection)はITSを構成するシステムの一つです。有料道路の料金所での渋滞解消やキャッシュレス化による利便性の向上、管理コストの節減などを図るため、料金所でいったん停止することなく、無線通信〔DSRC(Dedicated Short-Range Communication：専用狭域通信)〕を用いて自動的に料金の支払いを行うシステムです。

● AHS

Advanced Cruise-Assist Highway Systemの略で、走行支援道路システムを言います。事故の防止などの安全運転を支援するため、道路上の情報をセンサなどによって収集し、運転者に対して危険を警告したり、状況に合わせてハンドルやブレーキ制御などの運転補助を行うシステムです。

● COP3

1997年12月に京都で開催された地球温暖化防止に関する国際会議の略称です。地球温暖化ガスについて、各国の削減目標値や達成時期が示されました。

● IPP

Independent Power Producerの略で、独立系発電事業者と訳されます。独自の発電所を持ち、電力会社や

PPS(別項参照)に対して電力を卸す事業主のことを言います。

● PPS

Power Producer and Supplierの略で、電力小売事業者のことを言います。独自に契約した需要家に対し、電力の小売りを行います。

● ESCO

Energy Service Companyの略で、エネルギーの節約料契約を需要家と交わし、設備ほか一式準備したうえで、節約した分を需要家と分け合うビジネスを行う事業主を言います。

● ERP

Enterprise Resource Planningの略で、わが国では「統合業務パッケージ」と言います。製造業を中心とした受注・販売管理、在庫管理、生産管理、会計といった業務を総合的に支援するパッケージ化された情報システムで、日々の企業活動が個々の業務に即時に反映されることを特徴とします。

● SCM

Supply Chain Managementの略で、企業や組織の壁を越えて製造・販売・物流の全過程の情報と製品の流れをITによって効率化し、経営改善を実現する手法です。各過程がチェーン(鎖)のようにつながっていることから、このように呼ばれています。

● MES

Manufacturing Execution Systemの略で、「製造実行システム」と言います。生産現場に根づいた企業の情報化を実現する情報システムであり、ERPやSCMなどの業務・計画ソフトウェアと生産現場との間を橋渡しする情報システムです。

● PIMS

Plant Information Management Systemの略で、DCS(Distributed Control System：分散制御システム)などプラントの生産現場の生産制御システムと、上位の経営情報システムの中間に位置する情報システムです。生産データの統合・整理・加工・保管をつかさどり、設備診断・解析、品質管理等の情報システムなどへデータを提供する基盤システムです。